

○広域スポーツセンターの機能強化

外部組織とのネットワーク化や外部人材登用などのモデル事業の実施

■提言先：地方自治体

ヒアリング調査対象のクラブに、名古屋フラーテルホッケーチームがあるが、愛知県広域スポーツセンターの仲介で愛知県の総合型地域スポーツクラブに、チームOBを指導者として有償で派遣し、派遣先の総合型地域スポーツクラブによる試合を定期的で開催することで、ホッケーの普及と、ジュニア育成を可能にしている事例が見られた。

多くのトップレベルのスポーツクラブは、もともと企業チームであった歴史があり、地域では孤立しがちである。そこで愛知県広域スポーツセンターが提唱する地域スポーツの「クロスオーバーモデル」はナショナルレベル、都道府県レベル、市区町村レベルという競技力を高める縦方向の軸と総合型地域スポーツクラブ、トップレベルスポーツクラブ、地元大学、競技団体という生涯スポーツ社会のスポーツネットワークを広げる横軸を広域スポーツセンターが取り結ぶというモデルである。

愛知県や富山県の事例では、広域スポーツセンターが競技スポーツと生涯スポーツを連携させる機能を果たしていた。またヒアリング調査では、スポーツクラブのマネジメント強化のために地元大学の協力を得た事例、観戦者を増やすために地元大学や商工関係を巻き込んだチケット販売戦略を実行した事例もあった。

トップレベルのスポーツクラブの経営は、地元の多方面にわたるステークホルダーとの関係を構築する必要があり、公的な機関として広域スポーツセンターがこれまで以上に機能することが期待されている。

調査事業の結果から、**広域スポーツセンターの機能強化の重要性が認められ、外部組織とのネットワーク化、外部人材の登用などをモデル事業として積極的に推進し、モデル事業で得られた知見を全国に展開することで、トップアスリートの所属するクラブの経営安定化につながり、ひいてはトップレベル競技者の育成に大きく寄与することになる。**